

第6回（通算第19回）子育て講座（子育てについて聖書に聞く会）

2018. 3. 16 子供の家幼稚園

宗教主事 浦上結慈

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」

（マタイ福音書7：24－27）

子供の家幼稚園の園舎を立てる時、地盤調査がありました。もともとこの地域は湿地層だったそうで、地面のはるか下に堅い岩盤があるので、そこまで杭を打つことになりました。なんと120本の杭が必要でした。

ということは、その杭の上に建てなかったら、少しの地震でも、少しの雨でも建物が歪み、壊れてしまう危険があったということです。

園舎を建てる前に、こうして土台整備をきちっとしている様子を見ていて、私は人生も同じだと思いました。しっかりした地盤の上に人生を立てないと、どんなにすばらしいものを建てたとしても少しの出来事でひっくりかえってしまうのです。

奈良の法隆寺、薬師寺の宮大工だった西岡常一棟梁が、『木に学べ』という本のなかで書いていました。「塔を大木のようにしっかりたてるためには、地面がしっかりしてなくてはなりません。五重塔は相輪頂上まで、32メートルほど、総重量が120万キロもあるんですよ。これが1300年も沈むことなくたっていたのは、がっしりとした基礎づくりがあったんです。どうしたのかといいますと、塔の下にある地面にそのまま基壇を盛りあげるのではなくて、地面を、地山といまして固いしっかりとした層まで掘りさげるんです。これは強く、しっかりした粘土層で地表から五尺（約1・5m）ほど下です。ここまで掛りさげて、固い地山の上に良質の粘土を一寸（約3cm）ぐらいつき固め、その上に砂をおいて、つき固めというのをくり返して地上から五尺上まで基壇をつくりあげてあるんです。塔や堂はこうしたしっかりした土台の上にとっとるんです」。

記録にあるだけでも、40回以上の大地震が近畿地方にあったそうです。それでも、法隆寺の五重塔はいまでもしっかりと建っています。建物の例ひとつとっても、いかに基礎工事が大切なことかと思えます。そして育児では、その基礎工事が乳幼児期にあたるということでしょう。その意味で「3つ児の魂100まで」とは名言です。

昔、聞いたことですが、ある若夫婦は、生れたばかりの赤ちゃんを前にして土下座して「こんな親ですが、よろしく願いいたします」と言ったということです。親は完全ではありません。いろんな失敗もあります。私も、私が長男に叱る叱り方を長男がそのまま次男にしているのを見てゾッしたことがありますが、「これだけは真似してくれるな」と願った悪いところをきっちり息子が受けついでいくさまをみて、親と

して自分の人生をどう立ち上げてきたか、その土台は大丈夫なのかが問われずにおれませんでした。

私たち親も繰り返しの効かないたった一度の人生を歩んでいます。その人生の土台がどんなものかを子育てにおいて指摘され、整えていくことができるのは幸いなことです。どうか、皆さんの人生が豊かで祝福に満ちたものでありますことを、2017年度の子育て講座を締めくくるにあたり、そう祈るものです。

■上記の文章は、3月16日（金）開催の原稿です。2017年度の会も今回が最後。多くの保護者の方々が集まってくださり感謝です。有意義なひと時でした。

■次回は新年度です。5月に計画しています。